

「令和6年度 第1回阿見町人と自然が織りなす輝くまち創生有識者会議」議事要旨

会議等の名称	「令和6年度 第1回阿見町人と自然が織りなす輝くまち創生有識者会議」
開催日時	令和6年5月20日(木) 午後2時00分から午後4時30分
開催場所	阿見町役場 3F 305①②会議室
議題	(1)国デジタル田園都市国家構想総合戦略について (2)(仮称)阿見町デジタル田園都市国家構想総合戦略の策定について (3)地方創生拠点整備交付金事業の評価について (4)今後のスケジュールについて
出席者	[委員](敬称略) 齋藤 光子、塚本 浩行、牧山 正男、倉本 尚美、池田 有美、吉田 美奈子 鈴木 伸、江田 麻裕子、戸田 さつき、山崎 友美子、木村 美由紀、田島 峰子 [町] 千葉町長、井上町長公室長 政策企画課：糸賀課長、飯野補佐、野口主任、吉田主事
公開・非公開の別	公開 *傍聴者0人
議事結果	1. 開会 2. 委嘱状交付 千葉町長より、新任委員3名(塚本委員、吉田委員、戸田委員)へ委嘱状を交付。 3. 町長あいさつ 4. 諮問 千葉町長より、牧山委員長・齋藤副委員長へ諮問。 5. 議題 (1)国デジタル田園都市国家構想総合戦略について【資料1】 (2)(仮称)阿見町デジタル田園都市国家構想総合戦略の策定について【資料2-1, 2-2, 2-3】 (3)地方創生拠点整備交付金事業の評価について【資料3】 (4)今後のスケジュールについて【資料4】 * 有識者会議要綱第6条に基づき、牧山委員長に議長を依頼。 (1)国デジタル田園都市国家構想総合戦略について 委員長より、事務局へ議題の説明を求められたので、事務局より説明。 ～資料に基づき説明～
委員長	何か、意見がある方はいますか。
委員	デジタル基盤の整備、デジタルインフラの整備というのは、行政の観点から見ているのかどうかで話しが違ってくる。行政の観点でいうと、IT技術を駆使した申請や受付が

楽になるということだが、デジタル人材はハード面のことなので、「デジタル」という言葉でも、使い方によって全然意味が変わってくると思う。

行政は、要件が整っていれば受付するが、その良し悪しの判断は先の話になる。オンライン申請が可能になり、受付してしまうと、届け出と同一視され、申請や許可の概念も変わってしまう。

委員長

デジタルを発展させ、人が関わらないで処理できる部分が増えていくと、それがすべて正しいかどうか、見直すべきところがあるのではと思う。

委員

一般公開されていて誰も精査していない情報を取り出して便利に使っている状況。その代わり、情報量が多い。公共のものだと個人情報の観点から、限られた情報を集め、その中で情報を引き出しやすくするなど、いろいろな方法があるかと思う。

必要な情報を自分たちが集めてくる、ということに多大な労力がかかり、便利になるまでの労力が多大にある。AI を使って、一般的な情報と、そうではないものを分けるのもよいが、どれも一緒にという訳にはいかない。

委員長

何でもできることではないというのは、その通りだと思う。できる範囲を決め、できること、やるべきことを決めてということになる。

地方に仕事を作り、人の流れを作る。それから結婚・出産・子育ての希望をかなえる、魅力的な地域を作る。それぞれでどう使っていくかということ、それぞれでどう情報を使うのか、ということも大事な話。

一方で、魅力的な地域を作るということ。「魅力」という言葉の中にも、様々な意味が含まれていると思う。安全安心というのも魅力のうちで、様々な「魅力」ということの中にデジタルを組み込むのは、比較的やりやすいことだと思う。ただ、他市町村の動きも見てからでもいいのではと思う。

委員

情報が多様化していて、情報が精査されずに出てくるリスクが常にある。しかし、デジタル推進を考えたとき、行政のプラットフォームは安心だ、この情報は確かであるという信頼度があれば、デジタル化の意味はあると思う。

行政の立場でも、直接申請は分かるが、電子申請システムは分からない、ということもある。ハード面を提供するだけでなく、デジタル人材がハード面を使いやすくしていくという、プロセスがあれば、高齢の方たちも取り残されず、推進していけると期待する。

委員

町のキャッシュレス決済導入状況について聞きたい。

事務局

住民票や戸籍などについては、令和6年度に導入を予定している。また、1階の住民手続き関係の窓口については、キャッシュレス決済の導入を進めているところである。

委員

情報の使い方を整理するだけでも違うのではと思う。情報は載っていたが、その情報にたどり着くまでに時間がかかるということがある。なので、情報を分かりやすく発信していくかということだけでもだいぶ変わると思う。

委員長

重要な示唆であると思う。情報にたどり着きやすい自治体と、そうではない自治体がある。ホームページというのは、デジタル化をする上で一番の顔で、自治体のホームページを充実させるということは、重要なデジタル戦略だと思う。

今できることは、そういったところから始めていくことかもしれない。その際、作る側では分からない部分があるので、ユーザーの意見をいかに届けるか、届いたものをいかに反映するかという部分がある。そういうやりとりをしやすくするということも、ホームページをより充実させていく上では必要だと思う。そういった地味な努力が、町の魅力に繋がっていくと思った。

(2) (仮称)阿見町デジタル田園都市国家構想総合戦略の策定について
委員長より、事務局へ議題の説明を求められたので、事務局より説明。

～資料に基づき説明～

委員長

この委員会で議論するのは、総合戦略の位置付けに関する話である。総合計画を実現するにあたり、具体化し、物によっては絞り込んでいこうというのがこの総合戦略の立場。実現性を考えつつ、だが実現性ばかり考えたら夢を描けないので、大胆な意見もありだと思う。

それから、総合戦略の基本目標、先ほどのデジタル田園都市とも合致する。前回、アイデア出しを行い、結果をまとめたものであるが、これにこだわる必要もないが、これに新しいものを足されてもいいと思うし、それは後回しでもいいと思う。

これらを参考にしながら、総合戦略に一体どれを具体的に立てていくか、武器としていくか。本日は、なるべくこの議論に時間を割きたいと思っているので、自由に議論いただきたい。

委員

前は「デジタル」という視点は弱かったと思う。基本目標の中で、活力とにぎわいのある街とか、安心してとか、そういったキーワードがある。これは、すべて1人で完結せず、人との関わりがないと、不可能な事柄であり、人との関わりを生むため、デジタルを使えないか、というようなことになる。先ほど、ホームページの充実とあったが、その情報が使いやすい、有益だという実感が持てれば、これからの若い世代を取り込みやすいと思う。

それが自己完結してしまうと、まちづくりに繋がらない。情報発信したものを、どこへ繋げるのか、というところまで戦略的に考えていかないと、次には繋がらないと感じた。

まずは、情報をどのように発信していくのか。そして、どんな人をターゲットにするのか。受け手はどんな情報だったらどんな人が受けてくれるだろう、情報を受けた人が、自分だけで情報を完結させず、どう繋げていったらいいのかを考えていく。

基本目標でバラバラなものを、それぞれに追求していくよりは、繋がりが見えるものになって有効なものになるのではないかと考えます。例えば、基本目標1で言えば、農業生産性の向上とあるが、生産者の情報が見えるQRコードとかがあります。これを使えば、生産者の苦労や思いを発信できる。誇りを持って農業をしている方を知ってもらうため、発信していくのが一つだと思う。

また、基本目標 2 だったら観光資源の活用なので、こんな観光資源がありますだけでなく、その観光資源を楽しむために、町ではこんなコンテンツを提供できますとか、具体的に、町のどこかに足を運んでみようと思えるよう情報を発信する。

基本目標 3 だったら、安心して預けられるとか、子育ての情報とか知識を発信するだけではなく、具体的にどこへ行けばサポートが受けられるのか。移住してくる人は、知り合いがいなく、相談相手もない。それが、町のコンテンツで調べれば繋がれるとなれば有効になってくると思う。

基本目標 4 の空き家の提供だとすると、空き家のマッチングをどうするか。空き家を手放したい方はいると思う。空き家でカフェをオープンし、それが賑わいを見せれば、そこにコミュニティができる。そういう、マッチング情報を町で上手く流せば、いい効果があるのでは思う。

委員 空き家について、空き家バンクというものがあるが、阿見町は登録が少ないが、牛久市は登録が多い。その理由を調べてみるのはどうかと思う。

委員 リモートで働く人も支援。ここで働く人の仕事を作るのも支援というのは、対極にある支援だと思う。リモートの方は別に、この地域の中の仕事でなくてもいい。リモートで仕事する方は、住みやすさが第一にあり、仕事があり、ここで仕事している人とは対極にあるものだと思う。

大企業でも来ない限り、いきなりの雇用は無理だと思うが、リモートで働く人が周辺の地域から引っ越ししやすい、入りやすいみたいな支援の方が手をつけやすいと思う。

全部に共通している弱みに、公共交通が入っている。動きにくいというのが、4 項目の共通部分。阿見町居住ではないので、どういう公共交通があるのかお聞きしたい。

事務局 町で行っている公共交通というのは、デマンドタクシーのみ。コミュニティバスの運行は、現在計画にない。

一方で、バス路線が町内で減便になっており、不便になってるという状況がある。町では、他にカスミの移動販売車とか、そういった取り組みを行っている。

委員 交通がない中でサービスを作っても、送迎がとにかく大変。そうすると、サービスがその方のところに来るとい方が、使ってもらえると思う。利用するのに自分から行くとなると、想像以上のストレスを生じさせるもの。サービスはいっぱいあると言われても、使えない。

委員 コミュニティバスは、市に向けて必要ではと思う。その話を進められないのか、一町民としては疑問に思う。市になっていくのに、公民館から最寄りの公共施設を回る事ができないのかと思う。まず、こういうバスがあるからそこに拠点を置いて、色々ことを始める。車の運が転できないのと、活動が制約されることがあるので、その点を考慮してもらえると住みやすくなると思う。

委員 お店が少ないと言われているが、お店を選定し、発信すれば阿見町の魅力の再発見になるし、そのお店に行くかもしれない。阿見町ってこんなにいろんなお店がいっぱいあ

るのに、実は知られてないところがたくさんある。

つくば市では、「つくばスタイル」という事業立ち上げた。ペルソナをたて、こういう暮らしを実現できます、だから、つくば市に来ませんかというアピールを行った。阿見町でも、そういったペルソナをつくって、目玉になるものを作ればいいんじゃないかと思う。

委員

デジタルに慣れている世代と、そうではない世代がある。若い世代は比較的受け入れられるかもしれないが、そうでないデジタル弱者もいるので、そこを十分な配慮をしていただきたいと思う。

委員長

一旦まとめると、町のいろいろなところを巡るブログというような発言があった。町のことを専門に発信する委員を作ればいいのではと思う。町の中で指名して、そういう委員を作り、町の宣伝をやるということはいいと思う。

いろいろな拠点や何かのショップとか、地図にするのがいい。地図に落とすのは先として、町を宣伝する情報局員を、嘱託職員のような形態にする。月に何回以上は情報を書いてもらう、という縛りをかけていいと思う。それができ上がってくると、知られてない町の様子が浮き彫りになり、そこからモデル地区やモデルコースができると思う。

それから、空き家の活用という話は、空き家を利用して移住者を招くというのは難しい。

阿見町は家が建たない地域ではないので、空き家に移住者を求めるということは、その点に長けてる市町村にはかなわない。その代わり、チャレンジショップというものがある。先ほど「カフェ」というキーワードが出たが、趣味でそばを打っている方が土日だけ提供して喜んでもらいたいとか、そういうことはありだと思ふ。チャレンジショップの取り組みは、関東では少ないので、差別化が図れると思う。空き家を用いた移住のことを考えることがあっていいと思うが、優先順位があってもいいように思う。

それから、お店のデータベースがあつてはと思った。どこにどんなお店があるというのは、町民でも意外と知らない。個人情報もあるので、どこまで載せるのかということはあるが、よいと思う。そこから派生し、一歩進めたものになると、人材のデータベースになる。その何がいいかという、何が好きかというキーワードを登録し、そこから繋がっていく。そういう繋がりがあつると面白いと思う。ただ、お店のデータベース以上に、個人情報の問題があるので、簡単ではないと思う。

あと一番大きな問題になってくるのが、公共交通の問題。町内で人口が増えているところ、減っているところ、減り始めているところと、乖離が大きくなっている。阿見町は結構広いので、全部の地域を対象に、コミュニティバスは難しいと思う。なので、モデル地区を作るのはどうか。今、人口が減り始めてしまつてるところや、これから増やせそうなところをターゲットにし、そこを中心として病院や主要な公共施設をつなぐようなバスを作ることは、できそうな気がする。まずはモデル地区でやってみて、採算が採れないのであれば、止めればいい。やらない状態では、町民が納得しない。具体的な手はずを踏ん

でから、やっぱり無理だった、ということであれば、前に進むことになる。モデル地区を考えるとというようなことについてはどうか。モデル地区については、事務局に考えてもらう、何人かの委員で考えるかというような形でいかざるをえないと思う。

あと、デジタル弱者への配慮が、今の時代必要になってくるので、町の色々なイベントがあってもいいのではと思う。デジタル弱者に対する講習会のようなものとか。具体的には出てこないが、関西の中山間地域で、地域住民全員にタブレット配り、全員にフェイスブックを始めさせたというような事例があった。それが効果的だったとか、いろいろな人と繋がりを作るという点では効果的だったとの研究結果が出ている。さすがに全員にタブレット配付は無理だとしても、先ほどの情報局員の話に重ね合わせてもいいじゃないかと思う。情報局員になる方にはタブレットを進呈する。その方々に色々書いていただくように、全然やったことがないという高齢者に、地域の古いお話でもいいので発信してもらおう。そういうように、抱き合わせにすることも考えられないかなと思いました。

委員 例えば震災があつて、このエリアでこういうことが起きましたというのは、同時に把握できない。また、色々な情報が上がってくるが、その情報をスクリーニングできない、精査ができない、ということになる。情報を鵜呑みして動くわけにもいかない。

いざ、そういう災害・震災になった時に、情報局員には情報を行政に出してもらおうと、プラスの発信と同時に、マイナスに対する補完という両方の側面で、そういう形の募集に意味があるのではと思う。

委員長 災害情報は重要性を持つてくる。阿見町は広いので、この辺で今、局地的に大雨が降っているようなことも、この中央近辺にいると分からなかったりする。ここがいま封鎖されている、使えないといった情報もある。そういった場合に、派遣できる方々がいるといいかなと思う。大きな機材を必要としないし、割と簡単にできることだと思う。

委員 新しいことにチャレンジして自分ができるようになりたい、という高齢者のサポートも必要だが、どうしてもできないという高齢者には、代行するとか、そういうサポートも考えていかななくてはならないかと思う。

委員 自分が高齢者なり、デジタルが進んだら、生きていけなくなるのではと、恐怖に感じている。なので、高齢者と若い人たちが、コミュニケーションをとれるような場所を、空き家とかで作っていったらいいんじゃないかと思う。コミュニケーションをとれる場所を作り、お互いに支え合うような環境を作っていくというのが、理想ではないかなと思う。

委員長 民生委員のデジタル版だと思う。そのような方が地域ごとにいるといいと思うが、拠点となる場所がないといけないと思う。公民館が使えるとよいが、安易に使えない場合もあるので、そういう時に空き家がうまく使えるとよいのかなと思う。

委員 空き家問題でよく言われるのが、仏壇問題っていう言い方をする。仏間によその人が入るとするのは抵抗が強く、それが強く残ってる方ほど貸したくない。色々条件がつ

けられるので、そうなる人が借りない。

チャレンジショップを提案したのは、この問題が回避できることが大きい。仏間に入らなくてもチャレンジショップができるので、みんなが集える場というようなことであれば、それも可能だし、空き家を貸すということのハードルが下がると思う。

委員長 出産がゴールだと思っていたが、スタートだった。当時はそのことを知らなかったの
で、これから自分がどうなっていくかという先の姿を、いろんな年代の方と接すること
によって学べる場があるとよいと思う。

委員長 町民のサークルがもっとあっていいと思う。そういう横の繋がりがあって、皆でやり
とりをする。オンラインでのやりとりでも構わないと思うが、普段の繋がりがいいより
はずっといい。そういうことができるよう仕掛けが組めないかなと思う。

委員 知られてないだけで、サークルは結構ある。

委員長 それはどこで宣伝されているのか。

委員 ロコミ。あとは、公民館とかに貼ってある募集とか、講座をやった続きでサークルがで
き上がっている。

委員長 若い方はいないのか。

委員 ウィークデーにやってることが多く、平日に活動することが多い。

委員 興味あって調べてみたが、ホームページで名前は見るが、何をやっているか、活動内容
が分からない。

委員 役場の管轄では、どこになるのか。

事務局 中央公民館になる。最初は講座を受講し、その後自主的な団体として、サークル活動や
クラブ活動として、社会教育団体の登録をする方法がある。そうするとリストに載る形
になる。活動は、自分たちで公民館利用料を払って継続している。

委員長 それを、デジタル的に広げることは可能ですか。

事務局 サークルの紹介的なものは若干あるとは思いますが、最新の情報は事務局でもまだ確認し
てないので、分かり兼ねるところがある。

委員 潜在的には、すでにサークルがある可能性があるは、使おうとした時に使えない。子育
て支援と言ったら、このサークルがやってる、あのサークルがやってるってということ
だが、こちらに見えてこない。

民間でやっていた事例だが、子育て支援で「カルガモネット」という名前を使い、登録しているサークルがどういう活動しているかで、今日はここでこういうことやってますとか、一覧で見える化して、そこのサークルに入るとこういうことができる、というふうにとまとめた。どこがやるのかは明言できないが、行政がやった方が信頼度は高いと思う。

委員長

基本目標である子育て。結婚・出産・子育てというこの3段階を想定するならば、行政が中心にいた方が信頼はある。例えば、第3セクターで立ち上げるとか、NPO法人がこういうのになったものが出てくるとか、そういうようなことがあると強い。

子育ての話に飛んでいるが、その手前に結婚がある。コロナ以降、学生の出会いが減っている。なので、出会いの場の創出も必要だと思う。町から人が出て行って欲しくないことを考えるならば、町の中の出会いを考えてもよく、結婚前から子育て終了まで、一連のプラットフォーム化して取り扱えるような団体があってもいいと思う。

副委員長

昔は、隣の人が面倒を見てくれた。例えば、子どもの面倒を見れる人が登録すると、見られる時間があるから、その時は声をかけてくださいとか、町が情報を発信してくれるとよい。

委員

社会福祉協議会で、似たサービスがある。

委員

私も来てもらっているが、働いてると今日は来れないですとかいうことになると、対応が難しい。民間は必ず来てくれる。今日残業なんですと言っても、無理なので来れませんと言われることがあり、その使いづらさというのもあった。

委員長

基本目標は横に並んでるので、どの目標も重みを持つような議論になりがちだが、この委員会は、目標ごとに重みを変えていいと思う。

全部を並列で扱う必要はないので、今日の議論からすると、基本目標3の需要が高いように思う。基本目標3については、もう少し重点的に議論する場があってもいいと思う。次回以降、役場に対してただお願いをするだけではなく、具体的に何ができるだろうということのアイデアを出すのが、この委員会の務めですので、もう少し継続的に議論をしてもいいと思うが、事務局としてはどうか。

事務局

町では、子育て中の方や、地域の方も集まってもらえるような、子育て支援総合センター施設を作ろうとしている。そこに対し、お話があったような、交流の場であったり、そういう機能を持たせてもいいと思う。そういったアイデアをぜひいただきたいと思っている。

そういったアイデアを出していただくことによって、国の総合戦略に位置付ける拠点整備交付金を取りに行きたいと思っている。それには、そういったアイデアを皆さんにどんどん出してもらい、それを盛り込んでいくという必要がある。出来る、出来ないというのもあるが、ぜひ意見をいただきたい。

委員長

それでは、次回はこれを継続して議論を行う。

次回は子育てだけでなく、結婚の段階から考えたいなという意識がある。それらも含め、次回への継続審議とする。

(3) 地方創生拠点整備交付金事業の評価について

(4) 今後のスケジュールについて

委員長より、事務局へ議題の説明を求められたので、一括して事務局より説明。

～資料に基づき説明～

委員長

今年度は総合戦略の策定のタイミングなので、昨年度は2回しか開かなかったものを、今年度はこのように5回プラス、ワークショップミーティングなどを絡めながら、議論を進めていく説明になる。

第2回の内容が、一部継続審議になったので、ここに一部が食い込んでいく。第2回の内容を事務局と相談しながら、整理させていただければと思います。

委員長

屋外庁内施設見学について、事務局から説明をお願いいたします。

6. その他

町内施設見学について

～資料に基づき説明～

質疑なく、終了。

次回の有識者会議の日程については、7月を予定しているが、日程については委員長と調整の上、改めてご案内する旨を説明。また、町内施設見学会についても、改めて案内をすることを説明。

7. 閉会

阿見町